

No.84

すくらむ

2015.12.3 発行



福井県特別支援教育センターは、県立病院関連四機関の4階にあります。

P1 巻頭言

優れた講義と対応指針

所長 岩井 秀夫

P2

個別の指導計画の作成に向けて
～「子育てファイルふくいっ子」の活用～

P3

漢字の学習が困難な子どもが
活用できる教材
～「プレ漢字プリント」の紹介～

P4

全国特別支援学級設置学校長協会
全国研究協議会 福井大会

巻頭言 優れた講義と対応指針

福井県特別支援教育センター所長 岩井秀夫



今年の研修講座には、連携講座を含む19講座で2,237人の先生方に御参加いただきました。中でも「通常学級における授業のユニバーサルデザイン」の講座には、323人も参加があり、その動員数の多さに驚くとともに、先生方のニーズを的確に把握して、研修に生かすことの大切さを改めて感じました。

さて、このような人気の講座には、その進め方に共通する特徴が見られます。その一つが、テーマの伝え方です。どの講義でも、子どもたちの困っている様子や、課題が改善されて生き生きと学ぶ姿が示されます。それは、子どもたちの映像であったり、子どもたちの書いた答案や作文であったり、また、実際の指導の再現であったりもします。そこから講義のテーマが、鮮やかに浮かび上がってきます。

二つ目は、受講者自身による講義の中での発信です。その場での発言には、かなり勇気が必要ですが、講義には、発言したくなるような話題の振り方や問の取り方が、実に巧みに盛り込まれます。このように受講者自身が発信することによって、受講者が講義内容を自分のものとし、理解が深められていきます。

いかに生き生きとしたイメージを相手に伝え、より深く相手とコミュニケーションできるかが、その話の中身とともに、人を納得させる技術（コツ）なのだろうと理解しました。

ところで、障害者差別解消法の施行を次年度に控え、この11月に文部科学省が事業所向けの対応指針を示しました。この指針には、これからの学校においても課題となるであろうポイントが示されています。詳細は紙面の都合上省きますが、大切なことは、具体的に検討した結果、特別な支援が必要な子どもたちに対して、他の児童生徒とは異なる対応や制限等をしなけりならなくなった場合には、保護者にその理由を説明して理解を得、合意形成に努めるということです。

優れた講義には、内容の具体的な提示と受講者との対話が不可欠であったように、学校も保護者に対しての説明の際には、その理由を具体的に分かりやすく提示し、また、保護者からの意見もしっかりと聴き取ることが、これからの特別支援教育の鍵になるのではないのでしょうか。告示された対応指針を読みながらそのようなことを思いました。

個別の指導計画の作成に向けて ～「子育てファイルふくいっ子」の活用～



1 特別支援教育のスタートとともに

平成19年4月に文部科学省から出された「特別支援教育の推進について（通知）」においては、「個別の教育支援計画」の策定と活用と「個別の指導計画」の作成について明記されています。

特別支援学校においては、

- ・長期的な視点に立ち、乳幼児期から学校卒業後まで一貫した教育支援を行うため、医療、福祉、労働等の様々な側面からの取組を含めた「個別の教育支援計画」を活用した効果的な支援を進める。

小・中学校においても、

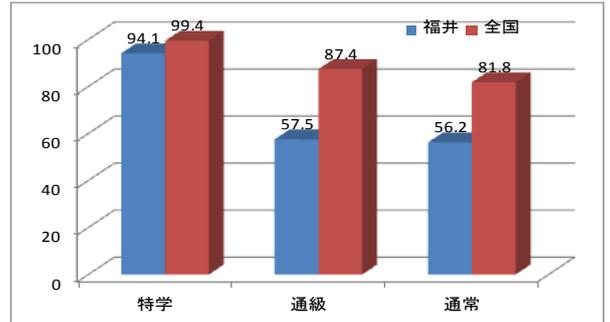
- ・必要に応じて「個別の教育支援計画」を策定するなど、関係機関と連携を図った効果的な支援を進める。
- ・必要に応じて「個別の指導計画」を作成するなど、一人一人に応じた教育を進める。

となっています。

2 福井県の現状

福井県において、特別支援学級・通常の学級・通級による指導を受けている子ども達の個別の指導計画の作成率は、右のグラフにあるように、全国平均に達していない現状にあります。

「個別の指導計画」を作成しなければならないと思っ
ても、日々の忙しさから、なかなか取り組めないという声も
あります。「個別の指導計画」は、子どもの実態に応じた支
援をするために作成するものです。指導・支援目標は実現可
能なものとし、子どもも教師も前向きに取り組めるものを
作成できるようにしていきましょう。



個別の指導計画作成 比較

3 「個別の指導計画」作成に関して

「個別の指導計画」は、作成することが目的ではなく、活用していくことが大切です。作成することに重きを置くと、形式的になり、負担感が増します。できるだけ気軽に作成できる方法として、子どもにかかわる複数の教師が参加するケース会議等の場で、話し合ったことを具体的に整理する記録用紙として活用することをお勧めします。次回のケース会議では、前回の記録用紙だった「個別の指導計画」をもとに、指導の経過を確認し、次の目標を決めていくことで、Plan - Do - Check - Actionのサイクルができます。項目が全部埋まらなくてもよいです。決まったところから記入していき、活用しましょう。『力まずに作れて役立つものを・具体的な表現で記入』という気持ちでよいと思います。

当センターの教育相談では、子ども理解と支援のツールである「子育てファイルふくいっ子」の基礎調査票を、事前に提出するようお願いしています。その基礎調査票と当日の行動観察から得られた情報をもとに、「発達状況シート」をケース会を通して作成し、子どもの見立て、ねらい、支援方法を共有するようにしています。これを、「個別の指導計画」の作成に活用していただけたらと思います。

4. 子育てファイルふくいっ子の「個別の指導計画」の活用例

A保育園では、1回目の訪問相談で、行動観察の後、基礎調査票をもとに、所員が子どもの日頃の様子を聞き取りながら、発達状況シートを作成しました。ケース会議では、今後の支援の方向性として、「日常生活において、一人でできることを少しでも増やすこと。気持ちの切替の手助けとして写真等を用いていくこと」を提案しました。

教育相談を機に、保育園では、ケース会を開いて個別の指導計画の作成に取り掛かりました。担当保育士は、これまでのかかわりの中から、有効な支援方法につながるエピソードを語り始めました。主任保育士や副担任からも、子どもについてたくさんのお話が出てきました。それらを記録していくと「個別の指導計画」が出来上がりました。子どもにかかわる複数の目で作成することのメリットだと思われます。その後、2か月位のスパンで指導経過を確認し、支援方法を見直したり、新たな目標を設定したりと、支援のサイクルが回り始めました。

このように、ケース会の記録として活用することで、「作成しなければ」と固く構えなくても、日頃の指導経過の記録としていながら、子どもの実態に応じた支援を考えることができます。難しく思わずに、できるところから始めてみませんか？

支援期間	27年 5月 20日	→	27年 6月 20日
目標	写真を見て次の活動が分かる		
支援の方法	水分補給→水筒 給食→スプーンなど分かりやすい 場面から活用を始める	経過	給食への気持ちの切替は写真カードを提示することで とても早くなった。
結果	写真カードはとても有効である。保育の別の場面に広げていく。		

【継続・終了】

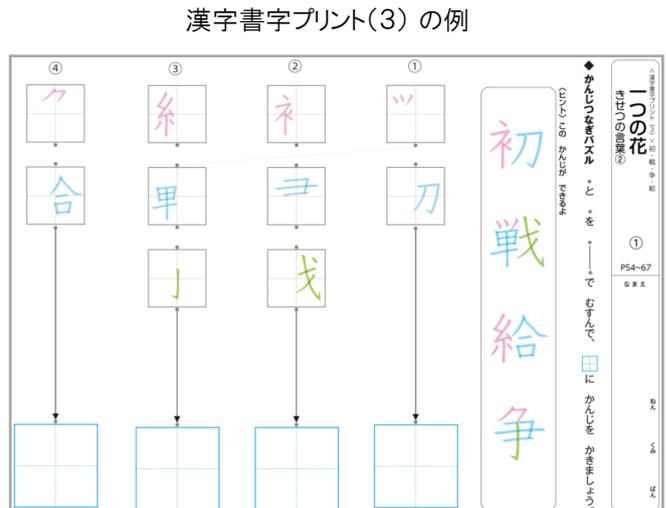
漢字の学習が困難な子どもが活用できる教材「プレ漢字プリント」の紹介

「プレ漢字プリント」は、**小学校で一般的に使われている漢字教材では漢字の学習が困難な児童を支援する目的**で開発した教材です。プリントの内容は、東京学芸大学教授 小池敏英先生の研究に基づいています。児童の認知特性（得意・不得意）に合わせた内容のプリントを選べるのが、これまでの教材にはない大きな特長です。学校や家庭で、このプリントをぜひご活用ください。（NPO法人 スマイル・プラネット の web サイトより）

- 特徴1. 小1～小6の光村図書出版・国語教科書の各単元に準拠している！**
- 特徴2. 多くの種類の中から、子どもが「自分に合ったプリント」を選べる！**
- 特徴3. インターネットのサイトから、プリントを無料で印刷できる！**

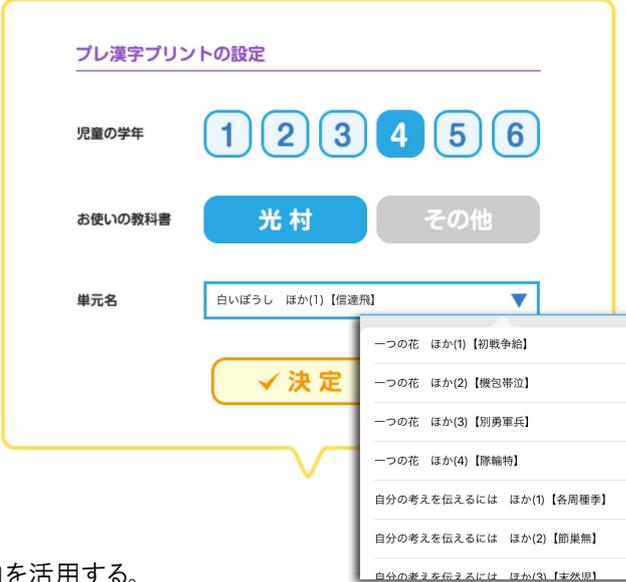
プリントの種類

- ★ひらがな単語の読みが苦手な子には
ひらがな読みプリント
 - ★漢字の入った単語の読みが苦手な子には
漢字読みプリント
 - ★見て覚えるより聞いて覚えるほうが得意な子には
漢字書字プリント(1)
 - ★くりかえし書いて練習するのが苦手な子には
漢字書字プリント(2)
 - ★聞いて覚えるより、見て覚えるほうが得意な子には
漢字書字プリント(3)
 - ★学習した漢字がなかなか定着しない子には
漢字保持プリント
- ※その他、1枚のプリントで「一つの漢字」を学習する
プレ漢字プリント【標準版】もあります。
(小1～小3の配当漢字に対応)



入手方法

- ① Yahoo! や Google で「プレ漢字プリント」と検索。
- ② 「一認知特特別読み書き支援—スマイル式 プレ漢字プリント」を選択。
- ③ 「学年」と「単元名」を選択し、決定ボタンを押す。
- ④ 子どもに合う種類のプリントを選んで表示し、印刷する。



活用例

- ・単元に入る前の予習で、「ひらがな読みプリント」を活用する。
- ・通常の学級で出される漢字の宿題の代替として、「漢字書字プリント」を活用する。

利用者の声

以前は、ノートに漢字の練習をする宿題が嫌いで、手をつけようとしなかったり、怒りながらやったりしていました。先生と話し合いをして「プレ漢字プリント」を漢字の宿題に置き換えてもらってからは、家に帰ると自分からすすんで漢字プリントをやるようになり、驚いています。



通級指導の時間に、新しい単元の予習として活用しています。言葉や漢字を探したり、パズルのように組み合わせたりするなど、ゲーム的な要素を多く含んでいるので、子どもは楽しみながら学習することができます。これだけの教材が無料で活用できることが、とてもありがたいです。



全国特別支援学級設置学校長協会 全国研究協議会 福井大会

平成27年7月30日（木）31日（金）に福井市のAOSSA（福井県民ホール・福井市交流プラザ）を会場に、上記の大会が開催されました。大会主題「一人一人の教育的ニーズに答え、豊かに生きる力を育む、共生社会の形成に向けた特別支援教育の推進と充実」のもと、福井県内はもちろん、全国各地から450名の参加者を迎え、盛大に大会が開催されました。

1日目は、「特別支援教育行政の現状と課題」と題し、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課長 井上恵嗣氏の行政説明の後、福井大学教育地域科学部教授の石井パークマン麻子氏から、「インクルーシブ教育の現状と課題 ～特別支援学校長の経験と視点から～」と題した講演がありました。特別支援学校の校長としての経験を通して、校長という立場だからこそできることや、やらなければならないことなどについて、具体的なお話があり、特別支援教育推進における校長のリーダーシップについての提案がなされました。



2日目は3つの分科会に分かれ、実践報告と研究協議がなされました。

<第1分科会>「特別支援学級及び特別支援教育の充実と学校経営」では、鯖江市惜陰小学校 林哲治校長が実践を報告されました。どの子ども分かる「ユニバーサルデザイン」の授業研究と、授業を通して困り感がある児童の支援を話し合う「授業ケース研究」の両面から、学校の授業力アップを図る取組でした。校長の役割は、校内研究をバックアップしながら、子どもの良さを伸ばす特別支援教育の方針を示し、専門機関と連携することであると報告されました。

<第2分科会>「関係機関との連携を図る中での支援体制の構築と学校経営」では越前市武生西小学校 関孝夫校長が実践を報告されました。越前市全体では、発達障害の可能性のある児童生徒の支援のために、各学校で共通の実態調査を行い、そこから明らかになった学校間の連携の現状や課題、望ましい連携の在り方について協議がなされました。関係機関との連携を深めていくためには、まずは校長が特別支援教育の重要性を認識することが重要であるという意見が出されました。

<第3分科会>「教職員の意識改革と学校経営」では、小浜市立小浜第二中学校 田邊重正校長が実践を報告されました。インクルーシブ教育システムの視点から、教員の意識改革を図るとともに、システムの構築を小中連携の柱として取り組んだ報告がありました。組織作りや人材育成に校長がリーダーシップを発揮することの重要性や、限られた人材や時間の中で、支援体制や支援の充実をどう機能させていくのかといった課題も出されました。各会場で大変熱心な研究協議が行われ、大会を終了しました。

実践研究発表会のご案内

支援を必要としている子どものために、日常の保育・教育活動等の中で工夫し実践している指導方法や内容、特別支援教育に関する意見や情報を交換し、指導の一層の充実を図るため、『実践研究発表会』を開催します。様々な校種等の実践を知ることができます。ぜひご参加ください

日時：平成28年2月10日（水）

会場：福井県特別支援教育センター

☆詳しくは、各学校・機関に配付する開催要項（12月末配付）をご覧ください。また、ホームページでもご案内いたします。

センターだより すくらむ第84号

発行日 平成27年12月3日
発行所 福井県特別支援教育センター
所在地 〒910-0846 福井市四ツ井2丁目8-1
TEL (0776)53-6574 FAX (0776) 52-6272
E-mail info@fukuisec.jp
URL <http://www.fukuisec.jp>